

ラオス公的債務管理(下) 中央銀行の長期債務

水野兼悟

ラオスでは中央銀行が長期債務を負っている。これらは外貨建てで、商業銀行からの定期預金や借入・保証債務、長期中銀債などを含む。準備預金や短期中銀債といった金融市場調節を目的としたものとは異なる。本稿では、ラオス中央銀行の長期債務につき整理する。

公的債務管理法と統計

公的債務管理法(2018年)では、ラオス中央銀行(BOL)と国有商業銀行の負債は、公的債務に含まない。BOL負債として、銀行券や準備預金、短期中銀債などを想定したものだろう。

しかし、BOLは商業銀行からの定期預金や借入・保証債務、長期中銀債など外貨建て長期債務を抱えている。外貨準備もBOL管理であり、その長期債務は公的債務に準ずる着目を要すると考えら

れる。

なお、BOL統計ではBOL債務額は分からない。同統計ではBOL負債として、対外債務や中

銀債、準備預金、国庫預金などの金額は明示的に記載されている。一方、国内の商業銀行からの定期預金や借入は、その他に分類され

表1 外国銀行の対BOL定期預金(19年末)

単位：十億キップ

外国銀行	本本国・地域	預金額	備考
中国工商銀行	中国	14,105	
中国銀行	中国	1,091	
國泰世華銀行	台湾	445	
アユタヤ銀行	タイ	83	
カシコン銀行	タイ	73	
パブリック銀行	マレーシア	69	
バンコク銀行	タイ	52	
ベトナム工商銀行	ベトナム	42	18年Q2
クルンタイ銀行	タイ	60	20年Q1
サイゴン商信銀行	ベトナム	17	
第一銀行	台湾	13	18年Q1
軍隊銀行	ベトナム	7	19年Q3
アクレダ銀行	カンボジア	5	18年Q4
サイゴンハノイ銀行	ベトナム	3	18年Q3

注) 外国銀行のラオス支店またはラオス現地法人のうち財務諸表が公開されているもののみ。複数支店ある場合には銀行ごとに集計
出所) 各行財務諸表

ていると見られる。そして、その他欄には資産と負債の差引額のみが記載されている。

商業銀行からの定期預金

BOLは国内商業銀行からの定期預金という形で、長期資金を調達している。中国工商銀行、中国銀行、國泰世華銀行それぞれのビエンチャン支店からの定期預金が多い(表1)。これら3行による定期預金は外貨(米ドル)建てと見られる^{注1}。

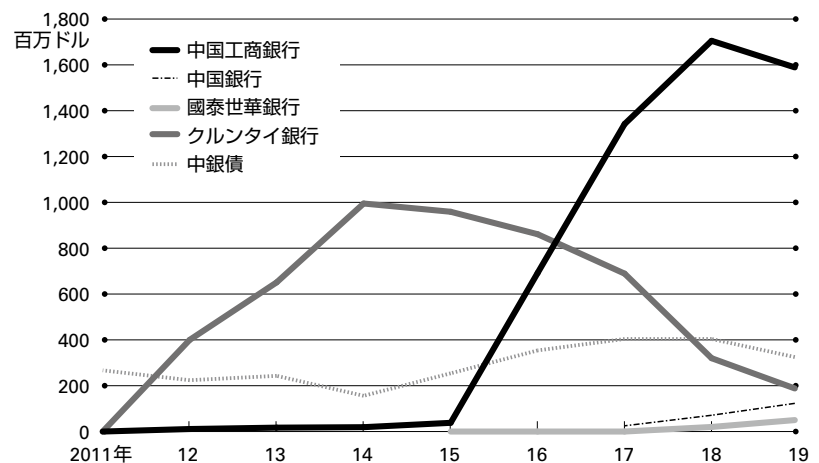
一方、公表されている他行の数値は僅少なため、BOLとの為替スワップ取引が計上されていると考えられる^{注2}。

また、ラオス最大の国有商業銀行であるラオス外資銀行(BCEL)も、BOLへの定期預金は資産に計上していない。ほかの国有商業銀行2行であるラオス開発銀行(LDB)と農業振興銀行(APB)も同様と推察される。

商業銀行への借入・保証債務

BOLは12年から、クルンタイ銀行ビエンチャン支店への借入・保証債務を負っている(図1)。借入は転貸目的で、保証債務は保証先が返済できないものを弁済していると推察できる^{注3}。12年から14年にかけて借入および保証が履行され、15年頃から返済されて

図1 BOL長期債務(抜粋)



注) 各行ビエンチャン支店。クルンタイ銀行へは借入・保証債務。中国工商銀行、中国銀行および國泰世華銀行からは定期預金
出所) BOL「Money and Banking Statistics」monthly series、各行財務諸表より作成

いる^{注4}。

なお、公表されている外国銀行のラオス支店またはラオス現地法人の財務諸表を見る限り、他行から同様の借入・債務保証は見当たらない。

また、BCEL財務諸表でもBOLへの融資や保証債務は計上されていない。

長期中銀債

BOLは19年10月に国内で米ドル建て中銀債を発行した(表2)。発行枠は500百万ドルであったが、BOL月次統計から見る限り、31百万ドルほどしか売れなかった(図2)。発行目的は銀行システム外にある外貨の吸収であり、投資資格は個人および非金融事業法人に限られた。

なお、BOLは以前より、数年満期の米ドル建て中銀債を発行してきた。投資家は外国銀行のラオス支店またはラオス現地法人である。

一方、BOLは金融市場調節を目的とした現地通貨(キップ)建て短期中銀債は発行していない。

外貨準備と資本規制

BOLの外貨準備高はここ数年ほぼ横ばいで、対月間輸入比では長期低減傾向にあり、一般的に望ましいとされる3カ月分を下回っている(図3、4)^{注5}。

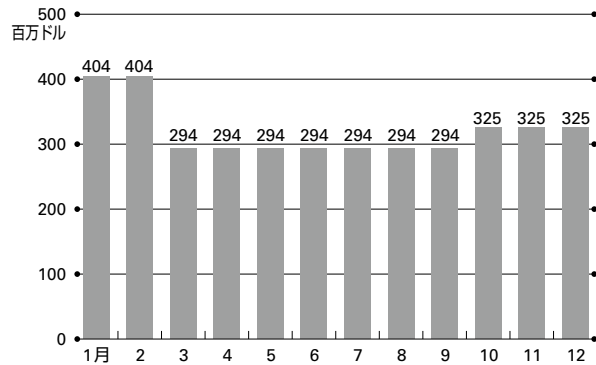
他方、為替にはBOLが設定する銀行間レート(単一)と、両替商による街中レート(複数)がある。20年第1四半期においても、前者と後者(の平均)で8%ほど

表2 個人・非金融事業法人向け中銀債発行

発行体制	発行体	BOL
	適格投資家	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオス国民 ・永住権を有する外国人居住者 ・非金融事業法人
	目的	銀行システム外にある外貨の吸収
	販売期間	2019年10月1～31日
	販売窓口	BOL、国有商業銀行（3行）
	発行日	販売期間中の払込日
	発行枠	500百万ドル
	発行総額	31百万ドル
	商品性	満期
金利		5%/1年、6%/3年、7%/5年
利払い		半年ごと
通貨		米ドル
証券		記名（指図）
券面単位		1,000ドル、5,000ドル、10,000ドル
譲渡		可
抵当化		可
分割		不可
中途解約		不可
早期償還		予定なし

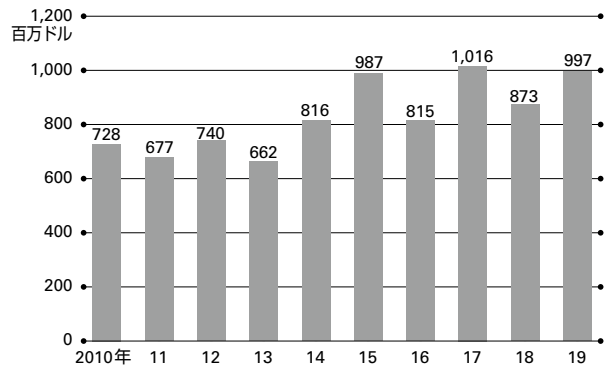
出所) BOL公告、BOL「Money and Banking Statistics」monthly seriesより作成

図2 中銀債残高（2019年）



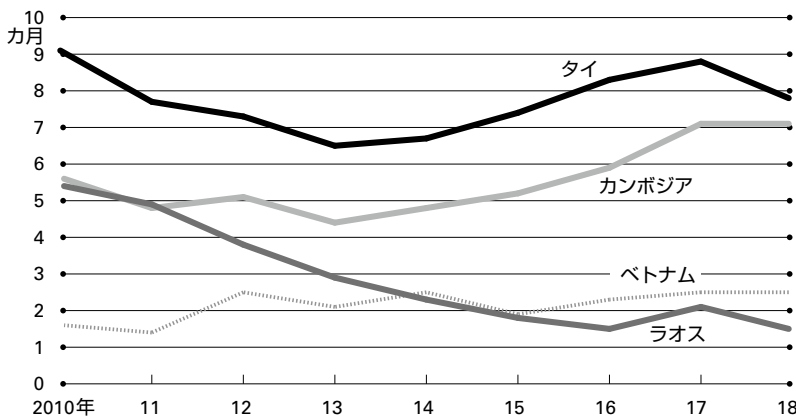
注) 19年10月満期の中銀債がないことはBOLに確認済み
出所) BOL「Money and Banking Statistics」monthly seriesより作成

図3 外貨準備高



注) 金準備やIMF特別引当権などを含まない
出所) BOL「Money and Banking Statistics」monthly seriesより作成

図4 外貨準備の対月間輸入比



注) 金準備やIMF特別引当権などを含む
出所) 世界銀行「World Development Indicators」より作成

差が開くことがあった。概して、後者の方がキップを割り引いており、商業銀行はキップから外貨（主に米ドルとタイバーツ）への両替をほぼ受け付けない。

また、国際通貨基金（IMF）は、キップが44～49%ほど割高に設定されていると分析している（16年末時点の対米ドル銀行間レート）^{注6}。

以上を勘案すると、長期中銀債や外国銀行支店からの定期預金

は、BOLにとって次のような目的のためと推察できる。

- クルンタイ銀行ビエンチャン支店への返済
- 外貨準備高の維持
- 為替スワップ取引などを通じた市中への外貨供給
- キップ価値維持とインフレ抑制

ただし、方策としては稀有かつ特殊であり、持続性に欠ける^{注7}。よって、早晩に構造改革が必要と

なろう。

注

- 1 通貨発行権を持つ中央銀行が現地通貨で商業銀行から定期預金を受けるとは考え難い
- 2 アクレタ銀行ラオスの財務諸表にはそう明記
- 3 クルンタイ銀行ビエンチャン支店の年次および四半期財務諸表より
- 4 転貸先、保証先は複数の民間企業と目されるが、公表されていない
- 5 BOLの対外債務は2019年末で71

百万ドルと僅少で、かつ増えていない

- 6 IMF「Article IV Country Report」Mar 2018
- 7 特定行に依存しているのもリスク要因

水野兼悟（みずのけんご）

野村総合研究所（NRI）グローバルインフラコンサルティング部上席コンサルタント